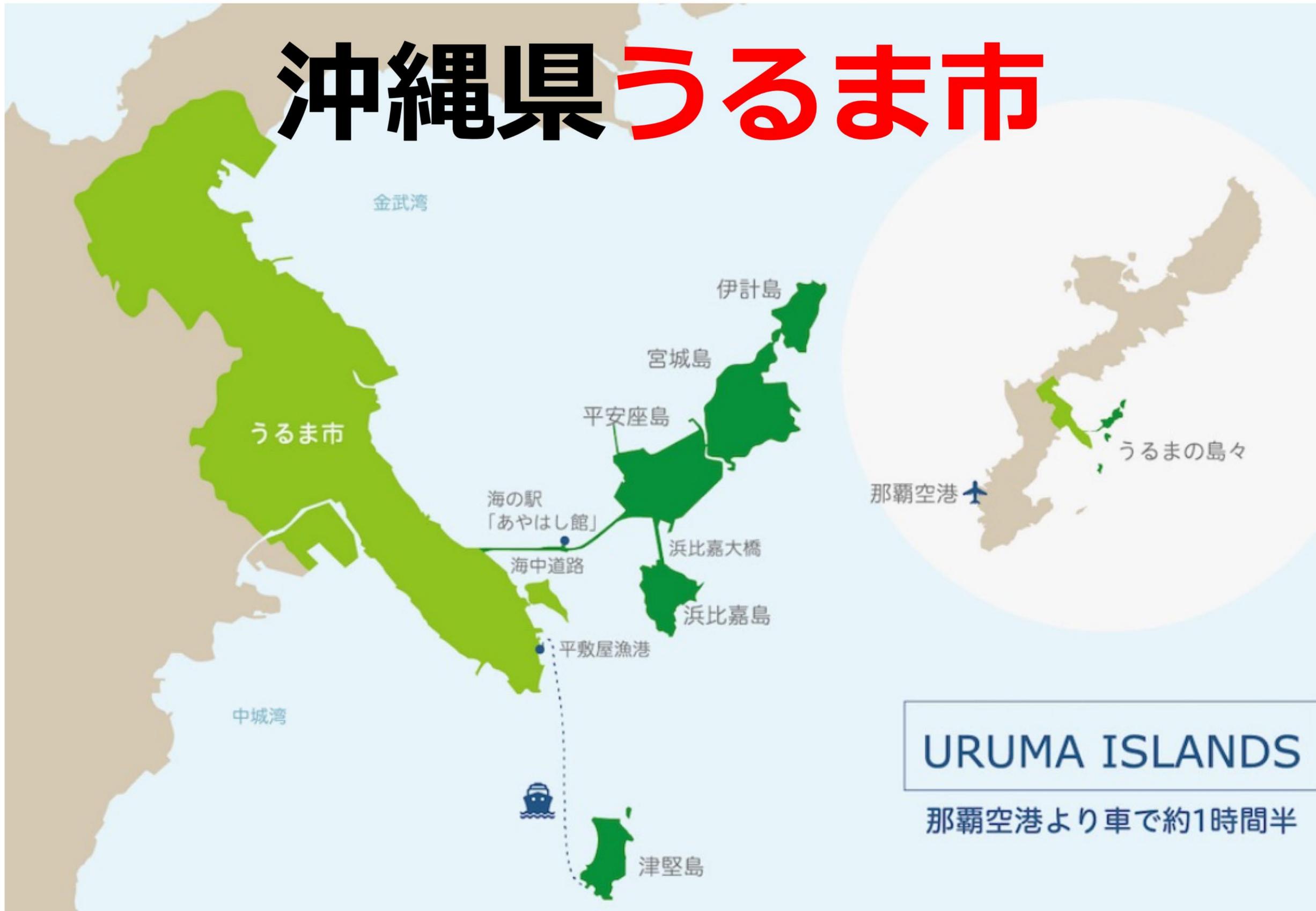


うるま市の地域課題とワーケーションの今後

令和4年5月26日

沖縄県うるま市



- 人口：12万5千人（県内第3位）
- 面積：87km²（本島第3位）
- もずく生産量日本一
- 島しょ地域は
過去10年間で20%の人口減少
- 1人当たりの県民所得
187万円（県内ワースト2位）

URUMA ISLANDS

那覇空港より車で約1時間半



戦後、最初の行政機関



肝高の阿麻和利



廃校×未来型の高等学校

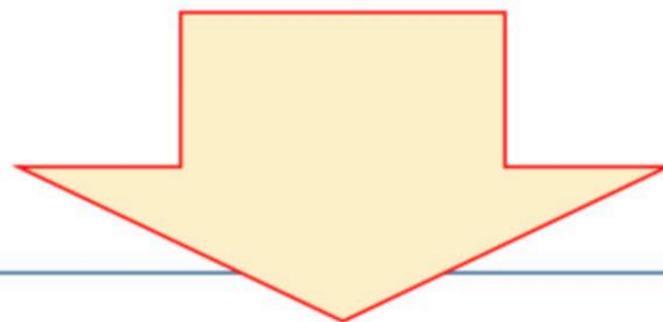
うるま市が目指すワーケーションとは？

- ①目的が旅行のワーケーション推進に取り組む場合、西海岸の強すぎるリゾートブランディングが先行し、差別化が図れない。
- ②観光業中心の西海岸とは違った、多種多様な業態が混在する経済下地がある
 - ・中城湾港新港地区
 - ・IT津梁パーク
 - ・商工会（会員数2000以上）
 - ・観光物産協会（ディープな観光施設等）
 - ・豊富な農産物（うるマルシェ）
- ③生活インフラ（スーパー・ランドリー等）が西海岸よりも充実している
- ④ワーケーション＝長期滞在（連泊）なので高級大型リゾートホテルではなく、安価なプライバシーの確保が可能な宿泊施設が必要
- ⑤今までの産業政策課にて蓄積されたターゲットになり得る首都圏企業への太いパイプがある
- ⑥案件目的の場合は、地域経済との関わりが期待でき、首都圏企業も社員等を送り出しやすい



観光振興の目的も含めつつ、主として産業振興全体のツールとして②目的が仕事のワーケーションを推進する！

他自治体よりも選ばれる理由を受け入れ地域側も一緒に作る必要がある！



・首都圏では「地方の課題＝新たなビジネスチャンス」と捉えており、地方進出の機会を伺っている。地方では地域課題を解決できる、新しいビジネスを共創できるノウハウを持った人材が必要！しかし、移住定住はハードルが高い。

まずは、ワーケーションを通じた地域を知る機会の提供、都会と地域の人材マッチング！

・地域は、どういうノウハウを持った人や企業に来て欲しいのか、どういう課題・案件を持っているのか発信する必要がある。ワーケーションを推進する意味を地域側も一緒に作る必要があり、ハードは重要だが作って待っているだけでは人は来ない。

→ワーケーションのソフト面の充実へ

地域としての不安

- ・ 自然の浪費 = オーバーツーリズムの延長
- ・ 限定的な経済波及効果
- ・ リゾートホテルと勝負にならない闘い

企業としての不安

- ・ 仕事？余暇？どうやって線引きする？
- ・ 経理処理や労務管理どうする？
- ・ 企業への帰属意識がどんどん薄れる

仮説

Work×Vacationは

実は誰も

幸せにしないのではないか？



Work×Co-creation (共創型ワーケーション)

共創型ワーケーション

- ・テレワークを基本としながら...
- ・来訪者と地域人材が出会って生まれる化学反応
- ・新しいアイデア／ビジネス／ネットワーク
- ・新しい働き方／生き方

関係人口の
創出・拡大

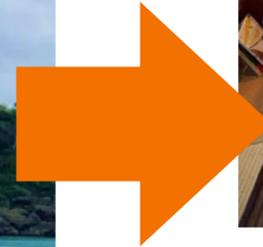
新たな
企業価値の
創造



島しょ地域のResources（自然・集落）を生かした

VACANTプログラム

（本質的な共創を生み出すための“余白”づくり）



うるま市内全域のResources（思いをもって活動する人）を生かした

共創プログラム

（本質的な共創を生み出すための“アイデア”づくり）

- 1 新しいIT産業(高度ソフトウェア開発等)の拠点となる
- 2 日本とアジアを結ぶITブリッジ(IT津梁)の役割を果たす
- 3 IT産業のテストベッドを提供する
- 4 日本とアジアに必要な高度なIT人材の創出集積を担う
- 5 優れたリゾート&IT就業環境を提供する



沖縄県の管理施設。令和3年8月現在 5区画に空きがある。今年も2棟新たに増設。今後も用地開発の検討あり。県外の認知度は高く、市のIT先進地としての象徴になる可能性あり

うるま市の各インキュベート施設



- ・ 現在、空き区画なし (今年3月に入居)

沖縄県情報産業振興課・商工労政課・産業政策課で
県外IT企業へ入居提案し、今年3月から入居決定。



- ・ 1号館 3F (450㎡) 改装中入居企業募集中



- ・ 空き区画なし

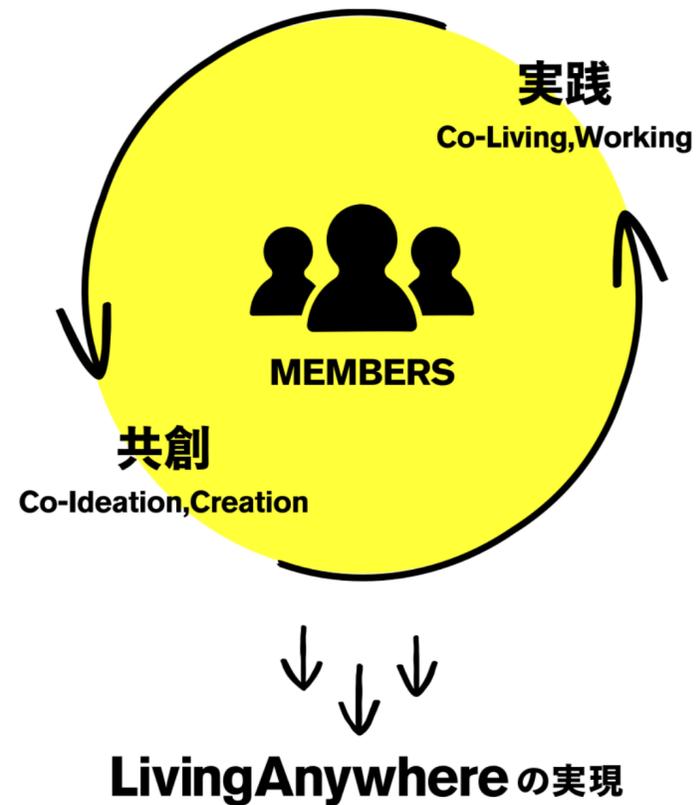
Concept

LivingAnywhere Commonsとは

場所やライフライン、仕事など、あらゆる制約にしばられることなく、好きな場所でやりたいことをしながら暮らす生き方（LivingAnywhere）をともに実践することを目的としたコミュニティです。

メンバーになることで、日本各地に設置したLivingAnywhere Commonsの拠点の共有者となり、仲間たちと共生しながら、自宅やオフィスにしばられないオフグリッド生活を体感、理想のLivingAnywhereを実現するための技術やアイデアを共創していく、刺激に満ちた環境に身を置くことができます。

引用元 : <https://livinganywherecommons.com>



海に育まれた沖縄の島で、
地域とのwell-beingな共創を生み出す



2022年春OPEN